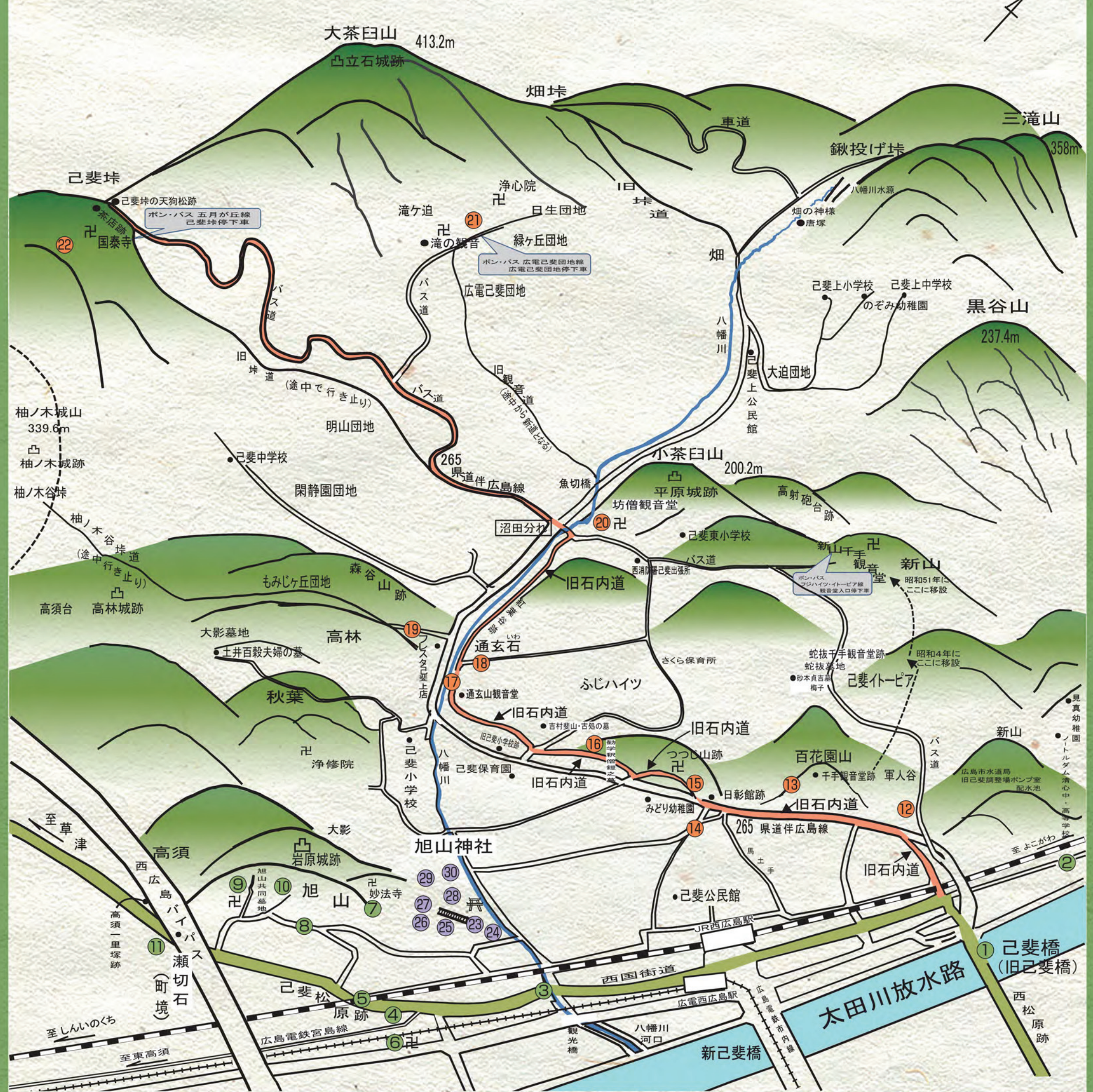


# 己斐の歴史めぐり案内地図



## 西国街道(旧山陽道)の歴史めぐり (己斐橋から瀬切石までの約1Km)

<p><b>① 旧己斐橋</b></p> <p>己斐橋は城下から佐伯郡へ出る橋ということで出郡橋とか佐伯郡沼田郡との境にあるので沼田橋と呼ばれたこともある。毛利氏の時代に築かれた土橋であった。木橋になったのは明治10年代、コンクリート橋になったのは1926年(大正15年)3月28日で、長さ80mだった。</p>	<p><b>② キリシタン殉教者の碑</b></p> <p>徳川幕府がキリシタン弾圧を始めたのは1628年(寛永5年)長崎においてである。広島藩でも迫害と弾圧が行われた。1634年(寛永11年)己斐の河原でキリシタン5人が火刑に処せられた。1984年(昭和59年)他地でも多くの殉教者があったことを伝えるために彫刻が設置されたとされるこの地に代表して殉教者の碑が建立された。</p>	<p><b>③ 源左衛門橋</b></p> <p>江戸時代の初めの頃、ある大名が通りかると八幡川が水不足で川を渡れず困っていた。近所の柴竹源左衛門が板を持って来て渡してやった。それでこの名が付いた。前、柴竹源左衛門は第3代広島城主浅野長成の幼友で、招かれて己斐「柴竹庄」をもらい住んでいた。</p>	<p><b>④ 別れの茶屋</b></p> <p>己斐の源左衛門橋を渡っておよそ200メートル西進したところに茶店があった。現在はパン屋である。柴竹家の家伝書によると浅野長成が幼友達の柴竹源左衛門と茶を飲み、世間話をして別れたからと伝えられている。浅野長成は1619年から1632年の間、第3代広島城主であった。</p>	<p><b>⑤ 己斐松原跡</b></p> <p>1633年(寛永10年)、幕府巡使の巡察を契機に領内の道路網の整備が一挙に進められた。己斐の西国街道は己斐橋から瀬切石までおよそ1キロメートル、街道幅が3間毎に計算上は約400本になる。己斐松原はその上に敷かれた。昭和45年に三大松原に数えられている。昭和51年に松原はなくなった。写真はありし頃の己斐松。</p>
<p><b>⑥ 善法寺</b></p> <p>瑞雲山善法寺、浄土真宗本願寺派。1556年(弘治2年)第1世善徳和尚が阿戸村に臨済宗臨済寺派蓮光庵を創立。1628年(寛永5年)広島寺町に寺院を移し、寺号を「浄法寺」と改めた。1705年(宝永2年)浄土真宗に改宗。1928年(昭和3年)第16世至道は仏閣を己斐に建て、寺町から移転、1936年(昭和11年)本堂建設、現在に至る。</p>	<p><b>⑦ 絶佳園跡</b></p> <p>神功皇后が三韓征伐の途上「野立ち」を自られた所と言われている。浅野時代はミカンの栽培が行われていた。1907年(明治40年)頃、舟入町の大村文太郎氏が、かいどうを植えて絶佳園と名付けた。山からの眺望は内海の景と花木的美とが相応じて絶佳であった。現在は石段が残るのみである。</p>	<p><b>⑧ 御船着</b></p> <p>200年頃、仲哀天皇のとき神功皇后が三韓征伐の途上、その船泊を幸いで己斐の「御船着」に到着された。その後(後の旭山)に登られ野立ちされた。この御船着は現在名残が残っており、旭山の南側の山頂の小道で高須と境界瀬石より100メートル手前辺りで起伏して昔海岸線だった様子を呈している。</p>	<p><b>⑨ 西福院と淡島大明神</b></p> <p>長榮山清照寺西福院 御本尊は十一面観音菩薩、並びに淡島大明神、1593年(文祿2年)隆慶上人が中高本町に建立する。1619年(元和5年)浅野長成公が広島へ入封の折、淡島大明神を当山へ奉祀される。原標によって焼滅。1957年(昭和32年)己斐の旭山南麓に再建する。国の指定重要文化財「紺紙金泥瓦印院藏羅経(965年作)」がある。</p>	<p><b>⑩ 千人墓</b></p> <p>1457年(長祿元年)己斐の岩城の争奪を巡って武田軍と大内軍の大戦が旭山南山麓で展開された。千人以上の死者が出たといわれ、合戦後320年を経た1778年(安永7年)己斐村の人たちが墓を建てて供養した。2基あるのは意味的なものと思われる。この墓はいつか行方不明になっていたが1926年(大正15年)に竹藪の中で偶然発見された。同年8月に旭山共同墓地に移された。</p>

## 旧石内道の歴史めぐり (己斐橋から旧埴道経由己斐峠まで約3.1Km)

<p><b>⑪ 瀬切石</b></p> <p>己斐村と古江村の境界地点を瀬切石という。そのいわれは大昔このあたりは海岸の波打た際の岩場があり上流から流れてくる水が岩につきあたり瀬をなしていたので名付けられたのであろうといわれている。現在は小さな川がある。</p>	<p><b>⑫ 植木屋次郎右衛門の墓</b></p> <p>1619年(元和5年)紀州から3代広島城主として浅野長成公が入府のとき、大阪の住持屋次郎右衛門が牡丹づくりのため藩に送られてきた。そして植木の適地として白羽の矢を立てたのが己斐である。しかし、この初代次郎右衛門は大阪へ帰りがてか定住した。従ってこの墓は子1代植木屋次郎右衛門の墓であらう。</p>	<p><b>⑬ 百花園跡と千手観音像</b></p> <p>1883年(明治16年)に百花園が創設された。桃と梅が多く、四方の眺望が素晴らしい。特に雪見どころとして有名だった。1885年(明治18年)普門山道徳寺(六ヶ谷)と福徳堂建立された。堂には初代広島城主毛利輝元公城の守り本尊として彫刻したと言われる「千手十一面観音菩薩像」が安置してあった。この像は現在新山千手観音堂にある。</p>	<p><b>⑭ 河原中の御前社跡</b></p> <p>太古、神功皇后が観音式をしたところと言われ、嗣と2本の黒松があった。こんざんさんの黒松と頼まれ、明治の頃、この御前をめぐりに往100メートルくらいこの輪になって盛園をしたと言われている。2本の黒松のうち1本は切られ、残りの1本も平成3年頃に枯死してしまっした。現在は切株をとめるのみである。</p>	<p><b>⑮ 蓮照寺</b></p> <p>浄土真宗本願寺派、清原山蓮照寺と称す。1717年(享保2年)長束村の僧恵玉による。己斐村に一字を建てたが随時寺であった。1871年(明治4年)本願寺より蓮照寺の称号を、1879年(明治12年)寺号の公称を許可された。現在本堂は1914年(大正3年)建設されたものである。鐘は1942年(昭和17年)供出、鐘樓は被爆倒壊したが再興された。</p>
<p><b>⑯ 光西寺</b></p> <p>法輝山光西寺 浄土真宗本願寺派。1704年(宝永元年)に広島の高須寺町の弟子智地が百花園にあった庵寺教坊を再興したと伝えられている。1879年(明治12年)光西寺の寺号公称許可、1910年(明治43年)中高須の西福院から移転して本堂建設、1942年(昭和17年)梵鐘供出、1967年(昭和42年)梵鐘復元</p>	<p><b>⑰ 庄屋跡</b></p> <p>己斐の誇れる偉人であった土井百穀の住居跡である。代々の庄屋で母は越智氏出自であった。景勝地紅葉谷に面しており、丁度己斐村の中央に位置していた。紅葉谷を愛でながら、頻りに訪れた詩人、風流人、旧友と語りあひ交し、談笑し、議論されたといわれる。越智振興碑がその名残りを留めている。</p>	<p><b>⑱ 通玄石</b></p> <p>明の国師元樺師(日本貴宗の開祖)が1655年(明暦元年)に己斐の加々桑山(小茶臼山)を訪れたとき、その山頂に樹々の景色が故里通玄山のそれによく似ていたので「通玄山」と命名し、書に記した。この書が通玄の家の家記の寺西郷土が手に入る、1674年(延宝2年)頃、小茶臼山の自然石に刻した。</p>	<p><b>⑲ 森の大歳社</b></p> <p>字大歳に在る。鎮座年限は不明である。御神体は石である。祭神は大歳神で穀物の守護神である。1906年(明治39年)神社社会発令が公布され、2年後の明治41年一村一社として己斐町の小祠が旭山神社に合併された。大歳社の御神体も旭山に遷されたが、地元の希望が強く戻された。それ程に地元の信仰心が厚かった。</p>	<p><b>⑳ 坊僧観音堂</b></p> <p>浄土宗、本堂は1532年(天文元年)己斐村の石原新三郎が創建、1878年(明治11年)再建。このお寺の位置が御投げ塚、畑、己斐川へ通じる道の交差点にあり、高かつて本住道に通じて広高へ至っていたので格好の己斐の道路元標の役割を果たしていた。</p>

## 旭山神社境内の歴史めぐり

<p><b>㉑ 滝の観音</b></p> <p>往古より堂宇があったが古くは荒廃、1850年(嘉永3年)己斐村の越智半右衛門が自費で再興、宇瀧が追加された。明治からの昭和初めの頃、遊覧客や修業者が多かった。正式には法道山観音院教願寺と言、戦前には広島新四国八十八ヶ所の第十一番だった。</p>	<p><b>㉒ 国泰寺</b></p> <p>1978年(昭和53年)中区中町より己斐三丁目己斐峠近くに遷された。戦前は普願寺、氏高別院と共に広島3大伽藍の一つ。開基は1594年(文祿3年)僧惠徳の臨済宗安国寺に始まる。開基は1619年(元和5年)曾曾照が曹洞宗国泰寺に改めたことによる。浅野氏の菩提寺であった。境内には浅野長成公の墓や忠霊、普照、大石良雄の妻、歴代各住職、寺西信之等の墓がある。</p>	<p><b>㉓ 土井百穀碑銘</b></p> <p>1828年(文政11年)己斐村の代々の庄屋の家に生まれ、通称善右衛門。土井百穀は己斐が生まれ出した教育者、明治維新に於ける教育界の先覚者である。1887年(明治20年)5月瀬石近くの国道筋に墓下の有志、子弟が頌徳碑を建立した。没後35年を経た1917年(大正6年)5月15日「百穀翁追慕会」が町をあげて盛大に行われた。その折、石碑も旭山神社下境内に移された。</p>	<p><b>㉔ 上野旭峯彰徳碑</b></p> <p>1850年(嘉永3年)10月己斐に生まれる。通称は善造。土井百穀の愛弟子で12歳の若さで教鞭をとり始める。1883年(明治16年)8月から己斐小学校初代校長に就任、以来20年間校長を務める。明治44年に退職するまでおよそ半世紀の間、己斐の子どもの運命に生涯をささげた。1913年(大正2年)1月3日、教え子たちが先生の徳をたたえて碑を建てた。</p>	<p><b>㉕ 橋本調二翁頌徳碑</b></p> <p>この頌徳碑は1961年(昭和36年)6月26日有志によって建立、1884年(明治17年)己斐に生まれ、熱心な教育者として活躍した。己斐に勇気を与えたものである。己斐町消防組にあること16有年。大正15年9月東京で全国消防組頭大会があった折、昭和天皇から「あの元氣のよいものは誰か」と下問されたという。</p>
<p><b>㉖ 大正天皇御即位記念樹</b></p> <p>1915年(大正4年)11月10日新天皇(後の大正天皇)が即位されたのを記念して旭山神社参道の石段八合目あたりにこの地に己斐町民が植樹した。2015年(平成27年)11月10日で植樹されて100年を迎え、己斐で一番の大樹となった。樹囲り4.4m</p>	<p><b>㉗ 忠魂碑</b></p> <p>1922年(大正11年)10月、旭山神社拝殿の横に建立。1937年(昭和12年)現在地に移転。加工石では己斐の最も大きな石碑である。背面には戊申戦争からシベリア出兵までの戦死、戦中戦時中の戦死者18名の氏名が銘刻されている。GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)により除去命令が出たが、当時の川本連合町内会長がセメントを塗って保護した。</p>	<p><b>㉘ 雙翠萬古の碑</b></p> <p>1900年(明治33年)5月10日明治宮親王(はるのみやとひとしんのう)後の大正天皇)と九条節子(くじょうさだこ)(後の貞明皇后)とが結婚された。己斐村では若い二人の永年の繁栄を願って参道の石段を昇り切った少し手前右の地にこの「雙翠萬古」の碑を建立した。</p>	<p><b>㉙ 絵馬堂(旧社殿)</b></p> <p>この絵馬堂は現在の拝殿があるところに江戸時代1843年(天保14年)に社殿として建てられたものである。1937年(昭和12年)9月、社殿建て替えたため現在地へ移された。己斐の中で最も古い由緒ある建物である。堂内には舞臺の絵馬が掲げられている。</p>	<p><b>㉚ 旭山神社</b></p> <p>200年頃神功皇后が松山に上られて野立されたとき建てた際に大層喜ばれたことから地名を襲い、その由緒から八幡宮を勧進し、推定800年頃己斐産土八幡宮が誕生した。1555年(弘治元年)毛利元就が戦国時代の戦勝祈願に此の社を訪れたとき丁度朝日が昇るのを見て縁起良くして旭山八幡宮と称された。</p>

### 己斐音頭

一、己斐の祭りのお祝いに己斐の始まり旭山八幡神社のの起り音頭に載せて言わねえか  
二、己斐のいわれは其のむかし神功皇后 出で給いに三韓を征伐し、その折に鯉を献上し、春の折に縣の主に 始められり  
三、時代は下って戦国の動乱騒ぎ、その最中毛利の殿様 元就公 臨む戦の必勝を名付けて朝日に祈念して八幡神社と 称したり  
四、ざいと下って江戸の項己斐の植木屋次郎右衛門上の堀に 始めたる植木・盆栽、その技術を明治・大正・昭和の代々伝えて、今の世に己斐の植木と 賞さるる



### 己斐の歴史年表

二〇〇〇年頃	神功皇后が黒驛に大層喜ばれたので地名を「麗」とした
七〇一	大宝元
七〇二	あき園をいさへ郡村誕生
七〇三	「好字」二化字により安芸国佐伯郡己斐村とする
一五六	長寛二
一五五	毛利元就、朝日を見て縁起良くして旭山八幡宮と称す
一五八九	毛利輝元、広島城の位置決め旭山に巻く
一六一九	元和五
一六四	寛文四
一六四四	安芸国佐伯郡己斐村に復す
一八七二	明治五
一八七三	安芸国佐伯郡己斐村となる
一八七四	己斐東四丁己斐村となる
一八七六	己斐小学校の前身となる「村立日影館」を開設する
一八七八	明治十
一九〇一	佐伯郡己斐村に復す
一九〇二	佐伯郡己斐町とする
一九〇四	広島県広島市己斐町となる
一九〇五	広島県広島市西区己斐町となる
一九一〇	昭和五

作詞者 田中茂武  
作詞者 中野茂武  
作成年月日 平成28年4月1日